

# ひょうごの遺跡

昭和61年7月15日発行

兵庫県教育委員会  
社会教育・文化財課  
兵庫県埋蔵文化財調査事務所  
〒652 神戸市兵庫区荒田町  
2丁目1番5号  
☎ (078) 531-7011代

〔題字 教育長 井野辰男書〕

## よみがえる古代山陽道と布勢駅家

—小犬丸遺跡（竜野市揖西町小犬丸）—

兵庫県教育委員会が発掘調査を進めていた竜野市の小犬丸遺跡で、このほど古代山陽道の“道”跡や駅家の存在を示す『驛』と墨書された土器が発見され注目を集めています。

小犬丸遺跡の所在する竜野市揖西町小犬丸は、両端を峠に挟まれた東西に長い谷あいので、遺跡はこの東端近く、南方に視界の開けた扇状地上に立地しています。

この小犬丸遺跡は、古瓦が散布することで知られており、古くは寺跡と考えられていました。しかし近年の研究により、古代山陽道の「布勢

駅」との見方が有力になりつつありましたが、まだ断定されるには及んでいませんでした。ところが昭和58年12月から翌3月にかけ、県道姫路・上郡線の拡幅工事に際して県教委が発掘調査を行うことになりました。その結果、駅を中心である駅館と推定される瓦葺建物跡や築地堀跡が見つかりました。しかし、小面積の発掘であったため駅家との関連は断定できませんでした。今回の調査地はそこから東へ100mの地点で、県道竜野・相生線道路改良事業に先立って、昭和61年1月中旬から3月中旬にかけて実施した



掘り出された古代山陽道



ものです。この調査によって小犬丸遺跡は布勢駅であるとほぼ断定できる資料が発見されたわけですね。それではもう少し詳しく調査成果を見てみましょう。

昭和58年度には、遺跡の中心部を横断するように、幅4m、長さ100mにわたる範囲を調査しました。この結果、南北に長い2間幅の建物跡が4棟と、東西両端を区画する築地塀の跡が見つかり、いずれも建物の軒下にあたる部分に大量の瓦が崩れ落ちたような状態で重なっていました。この建物のうち1棟では、土を盛って固めた壇の上に礎石を据えた跡が見つかりました。東西の築地塀の間隔は約85mあり、この間が駅の本館の範囲と考えられます。

出土した遺物の大部分は播磨国府系の瓦で、軒瓦のほとんどは古大内式と呼ばれる形式の文様をもつものでした。このほかには、須恵器、土師器や、緑釉陶器、中国製の磁器などが出土しましたが、これらの年代は、一部が奈良時代まで遡るものの、ほとんどが平安時代末のもの

でした。どうやらこれらが駅家の廃絶の年代を示すようです。

さて、今回の調査地は遺跡の本体からはかなり離れた地点です。峠を間近にひかえ、北は急峻な山、南は水はけの悪い谷という場所。現状では階段状に水田が営まれています。

遺構は地表下1~1.5mの深さで、東西にまっすぐ延びる幅60cm、深さ20cmの溝と、南方の湿地帯までの間に幅約7mの平坦地が、調査区内で長さ35mにわたって検出されました。この平坦地は、その立地、形態や出土遺物の年代から、古代山陽道の道路敷であると考えられます。これまで山陽道が発掘された例は岡山・大阪でそれぞれ1例あるのみで、大変珍しい発見です。道は、側溝部分では地山を掘り込んでおり、逆に南半では湿地側へ土を盛って固めて造られています。南端部分が後世の水田開発によって削り取られていて、こちら側にも側溝があったかどうかはわかりません。

この道が造られた年代は出土遺物から8世紀



調査地全景





駅館跡の瓦列



井戸



軒丸瓦の出土状態



「驛」銘墨書土器

ごろと考えられますが、実は11世紀には道の上に掘立柱建物が立てられていて道路の役目を果たしていません。これはいったいどうしたことでしょうか。今のところ明確には断定できませんが、国家が道路を維持管理する能力がなくなったのか、別の道路ができたために必要なくなったのか、いずれにしても今後の研究課題です。

さて、道の南側の湿地では井戸や水田跡が見つかりました。井戸の年代は出土遺物から11世紀、水田はそれ以降ですが、この井戸の周辺は8世紀代からの遺物が多量に埋もれていました。ここからは須恵器、土師器、緑釉・灰釉陶器、中国製陶磁器などの土器類や、下駄や曲物などの木製品に混じって、墨書土器、木簡、馬形、斎串、石帯などが出土しています。この墨書土器の中に問題の『驛』『布勢』があったわけですから、この発見で直ちに小犬丸遺跡が布勢の駅家であると断定できたというわけではあ

りません。というのは、この土器が駅で使用されたものかどうかわかりませんし、持ち運ばれる可能性も考えられるからです。これを証明するにはもっといろいろな方面からの研究が必要です。

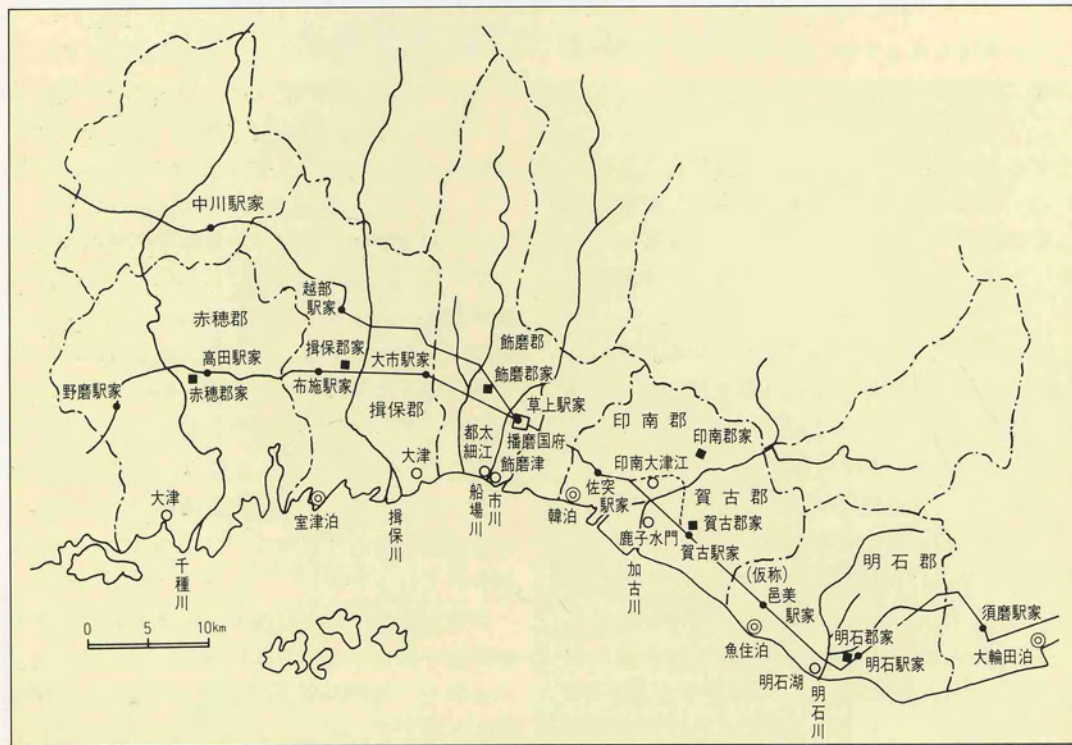
それでは小犬丸遺跡はなぜ布勢駅家だとわかったのでしょうか。文献によると駅家には瓦葺の建物があったようです。したがって駅家跡の遺跡では瓦が出土するわけです。従来は瓦が出土すれば寺院跡という考え方が一般的でした。ところが、播磨国で奈良時代後期の播磨国府系瓦がまとまって出土する遺跡は14カ所ありますが、このうち塔跡があって確実に寺であるものは5カ所しかありません。では残りの9カ所は何なのでしょう。

10世紀に編纂された延喜式には播磨国の9駅が列記されています。このうち山陽道沿いなのは明石、賀古、草上、大市、布勢、高田、野磨の7駅です。実はこれらの駅がほぼ先の国府系瓦出土遺跡に比定できるのです。2カ所足





西方上空からみた小犬丸遺跡 中央の道路沿いに古代山陽道が走る



古代山陽道の駅家 吉本昌弘「古代播磨国の郡衙」『人文地理35巻4号』から



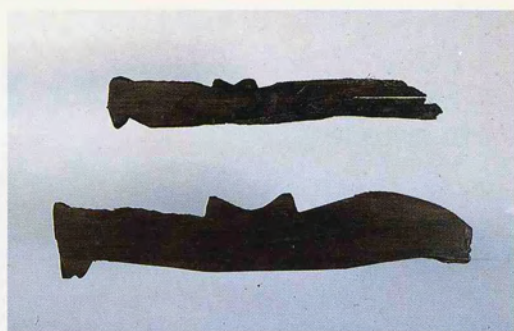
りない駅は、延喜式以前に廃止された邑美、佐突駅であることも研究によりわかっています。こうして小犬丸遺跡は布勢駅家跡と推定されたのです。そこへ『驛』や『布勢』の地名の墨書土器が出土していたので、このことを裏づける有力な証拠となったわけです。

律令国家では地方をいかに治めるかが重要な問題でした。このため、駅制は交通、通信手段として力を注いだようです。ところが、制度としてはよく知られる駅制も、その実体となるとほとんどわかっていません。今後も発掘調査などで駅の構造や人々のくらしぶりを復元していく必要があります。

小犬丸遺跡ではこの他に巨大な鳥形木製品が出土して話題になりました。全長71cmと全国でも2番目の大きさで、杉科の高木コウヤマキ製です。共伴遺物がなく年代は特定できませんが、古墳時代の可能性が高そうです。

#### 〈用語解説〉

- (1)山陽道…奈良・平安期の律令制下で、都と大宰府とを結んだ交通の要路。当時全国で七道が整備されたが、山陽道だけが大路と格付けされ、東海道、東山道は中路、その他は小路とされた。これらはいずれも国家により維持、管理された。
- (2)駅家…七道に設けられた、公用の官人、外国使節などのための施設。原則として三十里(16km)に1カ所置き、瓦葺き、白壁造りの休息、宿泊室のほか、倉庫などがあったと思われる。大路の駅には20頭、中路には10頭、小路には5頭の駅馬が、さらに維持、管理に当たる駅戸が置かれ、駅戸の中から駅長が任命され執務に当たった。また駅制は重要な通信手段でもあった。
- (3)木簡…木札に墨書したもの。伝達文書、帳簿などに使用されたものや荷札などがある。書き損じた場合には小刀で表面を削り取って書き直した。
- (4)墨書土器…須恵器や土師器に墨で文字や記号が書き込まれたもの。奈良～平安時代初めに多い。
- (5)鈿帯…奈良～平安時代の貴族や役人に使用さ



馬 形



鳥形木製品

- れた革ベルト。金銀銅や石製の飾り金具が付けられる。金具は、鉸具と先端の鈍尾、飾り金具の丸柄、巡方からなる。官位により材質が違っていた。
- (6)馬形…古代のまじないに使用された、馬を形どった木製品。これによりけがれを追い払ったという。よく似た使われ方をしたものに人形、鳥形などがある。
  - (7)播磨国府系瓦…播磨国司の管理下で焼かれ、官衙や寺院に配布されたと考えられている瓦の総称。国分寺式、長坂寺式、古大内式、本町式、野条式、北宿式の6形式が想定されている。小犬丸遺跡から出土している瓦の大部分は古大内式に属する。
  - (8)鳥形木製品…鳥を形どった木製品。村の守り神として飾られたり、葬送儀礼や祭祀に使用されたと考えられる。弥生～古墳時代の遺跡からの出土例が多い。ほとんどが20～30cm程度の大きさだが、奈良県石見遺跡のものは110cmと大きく、小犬丸遺跡のものはこれに次ぐ。県下では神戸市玉津田中遺跡、姫路市長越遺跡で出土例があるが、全国的にも数は少ない。



小犬丸遺跡では鈐帯の鉤尾に当たる部分が出土しましたが、兵庫県下ではこれまでに鈐帯、石帯を含めて11の遺跡で出土例があります。鈐帯は役人の官位を示し、正装に必要なものですから、これが出土する遺跡は官衙（役所）跡、あるいは役人の出入りする場所である可能性が高いことになります。具体的には、官衙、寺院、役人の私邸などが考えられます。たとえば下の表に示した吉田南遺跡は明石郡衙、あるいは明石駅家と考えられていますし、福成寺遺跡は城崎郡衙とみられています。

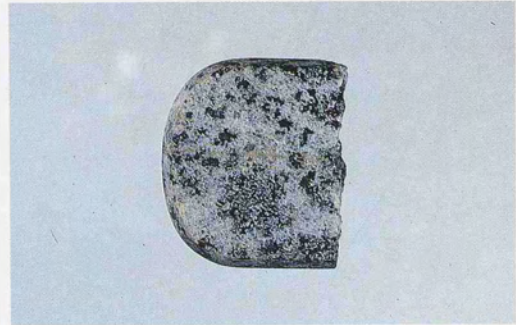
鈐帯は小さなものですから発見には偶然が伴います。したがって鈐帯が出土していない遺跡にも官衙遺跡はあります。最近兵庫県下で調査された遺跡を少し紹介しておきましょう。城崎郡日高町では昨年但馬国府推定地を調査しました。但馬国府についてはその所在地が不確かでしたが、この調査で木簡が出土し、その所在を裏づけました。氷上郡春日町で昭和58年に調査を実施した山垣遺跡では、濠に囲まれた奈良時代の館跡から21点の木簡と膨大な量の木製品が

出土し、木簡から、里長の館跡と考えられています。

姫路市の本町遺跡は昭和55年に調査され、これまで不明であった播磨国府である可能性が高くなっています。

このような官衙遺跡ですが、まだまだ調査された例は少なく、郡衙レベルになるとほとんどがその所在地すら不明であるという現状です。

これはすなわちこの方面の研究が遅れていたことによるのですが、発掘調査によって少しずつ失われた過去が明らかになりつつあります。



小犬丸遺跡出土の石帯（鉤尾）

## 兵庫県下鈐帯出土遺跡一覧表

	遺 跡 名	所 在 地	遺跡の種類	材 質	形 式
1	中ノ田	尼崎市猪名寺字中ノ田	集落	真岩	丸靱
2	親王塚付近	芦屋市親王塚町	古墳、古墓？	碧玉	巡方 2・丸靱 2 鉤尾 1
3	深江北町	神戸市東灘区深江北町2丁目	集落	銅	丸靱
4	吉田南	神戸市西区玉津町吉田	明石郡衙？	銅	絞具
5	対中	三田市相生町	集落	銅	丸靱
6	上原田	姫路市花田町上原田	集落	瑪瑙 かつ石	丸靱・巡方
7	小犬丸	竜野市揖西町小犬丸	布勢駅家	花崗岩	鉤尾
8	西木之部	多紀郡西紀町東木ノ部	集落	銅	丸靱
9	板井・寺ヶ谷	多紀郡西紀町上板井	集落	石	巡方
10	福成寺	豊岡市福成寺	城崎郡衙	銅	鉤尾・丸靱？
11	八原南住	城崎郡香住町八原南住	集落	チャート 粘板岩？	丸靱・丸靱



## 遺跡散歩

## —小犬丸周辺の遺跡—

〈交通機関〉 国鉄山陽本線相生駅下車

今回は小犬丸周辺の遺跡を探ねてみましょう。

小犬丸から峠を越えて山陽道を東へ向かうと、まもなく奈良時代の寺である中垣内廃寺につきまします。現在は恩徳寺の境内に礎石が残るのみです。そこからもう少し東へ足を延ばすと、白鳳時代創建という西播磨でも最古の小神廃寺があります。かつて威容を誇ったこの寺も現在では家並みの裏で水田となっています。しかし塔基壇や築地塀の名残や、そこここに見られる瓦片から当時の姿がしのべられます。ここから揖保川と槻坂峠を越えれば邑智駅に至ります。

さて小犬丸から南へ目を転じると、すぐ南の丘陵に長尾・タイ山古墳群があります。昭和55年に発掘調査され、馬形埴輪や馬鐸などの珍しい遺物が出土しました。古墳は現在でも保存されています。この丘陵の東麓にはサナギの圧痕のついた弥生土器が出土した尾崎遺跡があります。

さてここで竜野市を離れ、相生市域に足を延ばしてみましょう。相生に入ると真っ先に目につくのが塚森古墳です。直径30m以上の二段築成の円墳で、南側へ回ると周濠の形がよくわかります。この古墳と国道を挟んで向かいあわせにあるのが西播随一の巨石墳、那波野古墳です。この古墳は県史跡に指定されていますが、国道からはゴルフ場の看板にかくれて見つけにくいと思います。石室入口には鍵が掛かっていて、内部の見学には市教委の許可が必要です。

若狭野にある若狭野古墳はその特異な形態で有名です。昭和55年に調査が行われ、1辺15m、三



大陣原3号窯

段築成の方墳で、横長で小さな玄室をもった横穴式石室が埋葬施設です。この古墳も県指定史跡となっています。これらの石室の内部はうす暗いので懐中電灯をお忘れなく。

近年、相生の遺跡で注目されているのは須惠器窯跡です。窯跡は相生周辺一帯に分布し、大部分が平安時代のものです。これらの窯で最も古いものが那波野丸山窯です。この窯は古墳時代のもので、相生だけでなく播磨でも最も古く位置づけられます。このほか、大陣原、緑ヶ丘、西後明などで発掘調査が実施され、少しずつこの地域の焼きものの歴史が明らかになりつつあります。



小犬丸周辺の遺跡



## 昭和61年度 発掘調査予定遺跡一覧 (県教委実施分)

遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	面 積	予 定 期 間	概 要
初田館跡	多紀郡丹南町初田	近畿自動車道 舞鶴線	4,500㎡	61年 9 月 ～61年12月	中世館跡
相野古窯跡群	三田市上相野他	"	窯 5 基以上	61年 4 月 ～61年 8 月	須恵器窯跡
中尾城跡	三田市下相野	"	4,900㎡	61年 6 月 ～61年 9 月	中世山城
宮脇Ⅰ遺跡	龍野市誉田町宮脇	山陽自動車道	900㎡	61年 4 月 ～61年 5 月	中世集落跡
宮脇Ⅱ遺跡	龍野市龍野町堂本他	"	1,338㎡	61年 5 月 ～61年 8 月	"
西脇古墳群	姫路市西脇	"	古墳 9 基以上	61年 9 月 ～61年12月	古墳後期群集墳
雨流遺跡	三原郡三原町榎列	本州四国連絡道	3,975㎡	61年 5 月 ～61年10月	弥生水田跡
玉津田中遺跡	神戸市西区玉津町	土地区画整理	9,646㎡	61年 5 月 ～62年 3 月	弥生集落跡
本庄町道跡	神戸市東灘区本庄町	官舎建設	480㎡	61年 5 月 ～61年 6 月	水田跡
損保中遺跡	龍野市損保町損保中	国道拡幅	48㎡	61年 5 月	散布地
周世入相遺跡	赤穂市周世	周世バイパス	1,800㎡	61年 5 月 ～61年 7 月	集落跡
長尾沖田遺跡	佐用郡佐用町長尾	県道建設	468㎡	61年 5 月 ～61年 6 月	弥生集落跡
姫路城跡	姫路市本町	学校施設改修	60㎡	61年 8 月	近世城跡
明石城跡	明石市明石公園	弓道場建設	60㎡	61年 8 月	"
深江北町遺跡	神戸市東灘区深江北町	県営住宅建設	350㎡	61年 4 月	弥生集落跡
小路大町遺跡	神戸市東灘区本山南町	"	334㎡	61年 4 月	水田跡
下加茂遺跡	川西市加茂2丁目	県道拡幅	480㎡	61年 8 月 ～61年 9 月	集落跡
伊丹廃寺	伊丹市緑ヶ丘7丁目	学校改築	108㎡	61年 4 月 ～61年 5 月	古代寺院
対中遺跡	三田市相生町	駅前整備	1,100㎡	61年 6 月 ～61年 7 月	水田跡
溝ノ尾遺跡	三田市末西	青野ダム建設	1,136㎡	61年 4 月 ～61年 8 月	古墳～鎌倉集落跡
但馬国府	城崎郡日高町松岡	国道312号線 バイパス建設	4,500㎡	61年 9 月 ～61年12月	但馬国府
平野大墓	美方郡温泉町桐岡	県道拡幅	236㎡	61年 7 月	中世墓
宮尾古墳	城崎郡香住町境	国道178号線 バイパス建設	55㎡	61年10月	古墳

差別をなくそう県民運動 8月1日～31日

「なくそう差別！ともに生きる社会なんです」

61教P2-051B5